

効果の上がる学習方法とは

開倫塾

塾長 林 明夫

おはようございます。開倫塾塾長の林明夫です。

おかげさまで、「開倫塾の時間」はこの3月で18年目に入ります。長い期間、つたない話を聴いていただいてありがとうございます。これからも頑張りますので、どうかよろしく願いいたします。18年間もやらせていただいて、一番勉強になったのは私自身かもしれません。皆様には、ご意見やその他さまざまなお協力をいただき、心から感謝申し上げます。

この番組は、勉強の仕方についてどのようにしたらよいかというテーマでお話をしています。一番最初にお話したのは、学習効果は学習方法×学習時間で決まるということです。つまり、学習効果は、よい学習方法と十分な学習時間によってもたらされるものであると言えます。かけ算ですから、どちらか一方がゼロになると、結果はゼロになってしまいます。どんなに素晴らしい学習方法で行っても、学習時間が少ないと効果は上がりません。逆に、学習時間をいくら多く取っても、よい方法で行わなければ効果は上がりません。このような話を、最初からずっとさせていただいていることを覚えております。

やはり、学習時間を取ることは大事です。昨年の10月くらいからずっとお話させていただいておりますが、今の高校生は本当に学習時間が少ないようです。1時間半までの人が80%を占め、そのうちの51.4%は0分です。ほとんど勉強しないまま、大学・短大・専門学校などに進学してしまうため、これをもって教育の失敗だとの考えを示す方もいらっしゃいます。私も、その通りかなと思います。そして、なぜそのようなになってしまったのだろうと思います。もう一度原点に戻って、上の学校に行っていられる方ほど学習時間をたくさん取るようにお勧めしたいと思います。小学生よりも中学生の方が少し余計に勉強した方がよく、中学生よりは高校生、高校生よりは大学生、大学生よりは社会人と、だんだん増やしていくのがよいと思います。忙しくてなかなか時間が取れないとは思いますが、本当は社会人が一番勉強しなければいけないんですよね。

では、どのようにして学習時間を取ったらよいのでしょうか。学習時間を妨げる一番大きなものは、テレビ、ビデオ、コンピュータゲームなどかもしれません。現代の日本は金銭的に非常に豊かになってきましたので、各家庭の各部屋にはテレビが一台ずつあります。昔はご近所同士で集まって見ていたようなテレビが、今は部屋ごと、個人ごとであり、さらには風呂場やトイレにまで備え

付けたり、車の中まで持ち込んでいる方もいらっしゃいます。(車の中で見るのは避けていただきたいと思います。)このように、日常生活の中にはテレビの画像がたくさんあり、それは楽しいですから、学習時間を非常に少なくしている原因になっています。「百マス計算」で有名な陰山先生もおっしゃっていましたが、子供たち、特に小学生は、コンピュータゲームやテレビなどで多くの時間を使うのではなく、できれば早く寝て早く起き、学校で頭が働くようにした方がよいと思います。家庭でも少しは勉強しなければいけませんので、テレビを見る時間を少なめにして、その分を、新聞を読んだり、読書をしたり、学校の復習をしたりする時間にまわすようお勧めします。それが大事なことの1つです。

では、効果の上がる学習方法とはどのようなものでしょうか。学習の段階には3つあります。「うん、なるほど」と「理解」をする段階が1つめ。それを身に付ける段階が2つめ。一度「理解」したものは、暗記をするとよいです。ただし、理解していないことを覚えることほどむなしいことはありませんから、それは避けた方がいいですよ。また、書く練習もした方がいいです。今の子供たちは本当に書くことが不得意ですね。ですから、書く練習をして、それをテストや一般の生活に役立てられるよう「応用」することが大事だと思います。私は、学習を、「うん、なるほど」と腑(ふ)に落ちる・「理解」する段階、暗記をする「定着」の段階、テストでよい点数を取ったり、その知識を世の中で役立てたりできる「応用」の段階の3つに分けています。

それぞれの段階ごとに勉強の仕方が違いますので、それもよく身に付けていただければと思います。「理解」の段階の勉強は、次のようにします。学校やその他いろいろなところで教える時は、メモを取る場合は別にして、手は机の上に置き、先生の目を見て、もちろん先生の目と自分の目を合わせてアイコンタクトをとりながら、先生の話に集中する。容易にできますので、是非やっていただきたいと思います。

次は、「定着」の段階の勉強の仕方です。ゆったりした音楽はかかっているだけでもよいかもしれませんが、テレビなどの映像は遠ざけて、静かな環境でやって下さい。できれば、一人静かに壁に向かって、カリカリと鉛筆の音が聞こえる雰囲気の中でやるとよいと思います。椅子にずっと座って30分なり1時間熱心に勉強することも能力です。ですから、勉強できるという能力の中に、長い時間、30分あるいは1時間集中できるということも入れていただければと思います。

この番組では、これからも、「理解」「定着」「応用」に沿った勉強の仕方についてお話させていただきたいと思います。私も益々頑張っていきたいと思いますので、皆様もこの番組を通じて、また、ご自身で熟考して、自分自身の勉強の仕方を確立して下さい。自分自身で勉強することを、自己学習能力と言います。これをできるだけ身に付けて、高齢化社会の中で死ぬ前の日まで、自分の夢に向かって勉強をし続ける人生もおもしろいと思うのです。勉強し続ける人のことを、教育ある人とドラッカーという人が言っています。私もそう思いますので、皆様も勉強し続ける人、つまり教育ある人になっていただければと思います。